



農産物等研究専門部会
第1回専門部会

平成27年7月13日（月）

平成27年度 農と環境を活かしたまちづくり

農産物等研究専門部会 第1回専門部会

1. 「農と環境を活かしたまちづくり」の基本的事項 .. p3
2. 平成26年度の試行的取り組み事項（全体） p12
3. 平成26年度の試行的取り組み事項（専門部会） .. p 21
4. 実施計画の作成に向けた今年度の取り組み p31
5. 今後の予定 p39

1. 「農と環境を活かしたまちづくり」の基本的事項

1-1. はじめに

1-2. 対象地

1-3. 地域資源

1-4. 地域が抱える主な課題

1-5. まちづくりの目標

1-6. まちづくりの推進体制

1-7. 実施方針

1-8. まちづくりの基本的な進め方

1-1. はじめに

黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり とは

黒川地区の豊かな緑と農地が残された里地里山の面影を残す良好な環境を舞台に、黒川地区を支える様々な担い手が連携し、多様な取り組みや交流を通して、地域の課題を解決しながら、持続的な環境の保全や地域の活性化につなげていく試みです。

- 平成26年度では、農と環境を活かしたまちづくりの方向性、道筋、具体的な取り組み等について、基本計画としてとりまとめました。
- 各関係者が共有できる実施計画を作成し、本格的な活動につなげていくため、今年度は、様々な取り組みを具体的に試行しながら、評価を行い、課題解決の糸口やまちづくりの道筋を見定めていきます。

1-2. 対象地



1-3. 地域資源

農業資源



豊かな農地



良質な地元農産物



セレサモス



体験農園・観光農園



農業情報センター



農作物の活用（料理教室）

環境資源



里地里山景観



特別緑地保全地区



散策路



豊かな動植物



汁守神社



黒川青少年野外活動センター

黒川地区の良好な里地里山の環境・景観を支える **人的資源**

農業者

保安全管理団体

大学

ボランティア

市民

1-4. 地域が抱える主な課題

農が抱える課題

- 都市農地の保全
- 農家・農業後継者の減少
- 地元農産物の魅力づくりや付加価値の向上
- 来訪者等のマナー向上

etc.

緑が抱える課題

- 里地里山環境の持続的な保全・活用と担い手の確保
- 生物多様性の保全、環境学習環境の確保
- 農業施策と緑地保全施策の連携

etc.

地域が抱える課題

- 地域の活性化と増加する来訪者への対応
- 農業者、地域住民、市民ボランティア、大学、周辺企業、市民等との積極的な連携

etc.

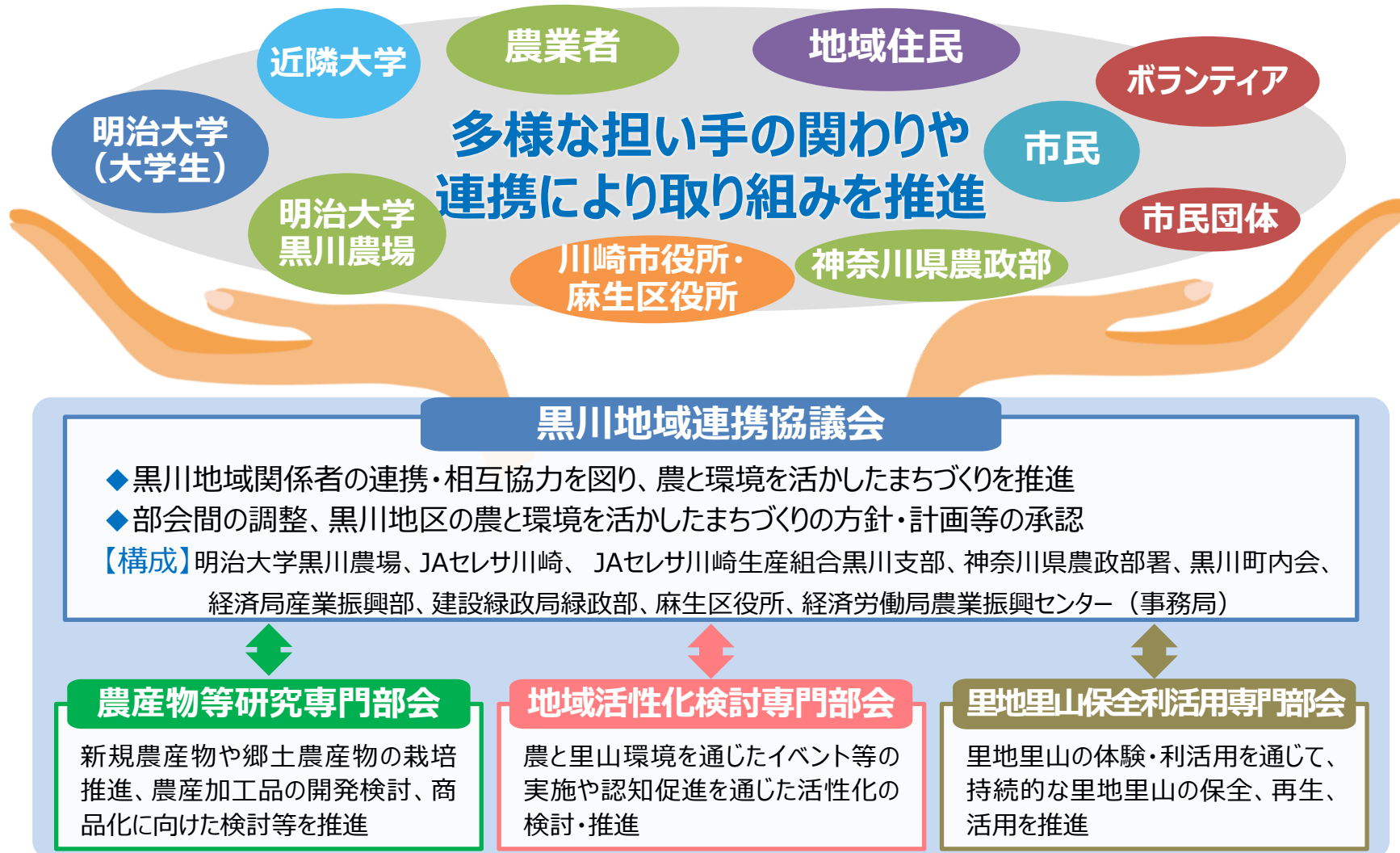


地域課題を解決しつつ、地域の交流・活性化、持続可能な環境保全へ

1-5. まちづくりの目標



1-6. まちづくりの推進体制



1-7. 実施方針

実施方針

地元農産物の販売促進と
加工品の開発

農や里地里山を体感する
イベントの実施・PR

里山の保全管理や活用の
推進

実施体制と役割

農産物等研究専門部会

農畜産物、林産物及び加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

- ①新規農産物や郷土作物の栽培推進
- ②農産加工品の検討開発
- ③農産物等のイベント活用やPRの推進

地域活性化検討専門部会

農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。

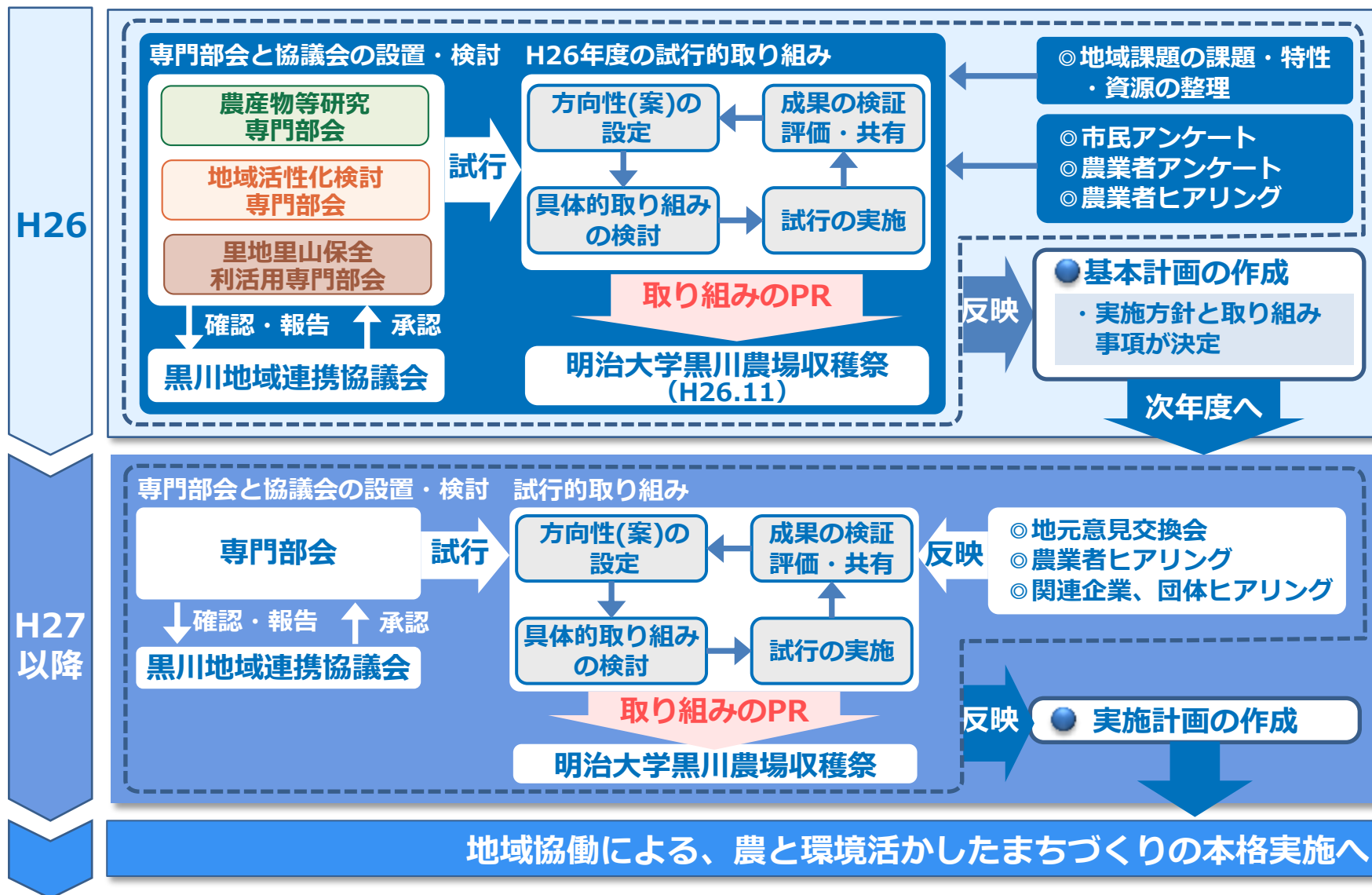
- ①農と里山の認知促進
- ②農と里山の体感
- ③地域資源の発見・創造・育成

里地里山保全利活用専門部会

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

- ①里地里山の体験・利活用
- ②里地里山の保全管理

1-8. まちづくりの基本的な進め方



2. 平成26年度の試行的取り組み事項 (全体)

2-1. 平成26年度の主な取り組み事項

2-2. 「農と環境を活かしたまちづくり」基本計画

2-3. 「農と環境を活かしたまちづくり」実施方針

2-1. 平成26年度の主な取り組み事項

（1）推進体制の構築

（2）基礎的情報（現状と課題）の共有

（参考1） 黒川地区の基本情報MAPの作成

（3）関係者への理解の推進

（参考2） 農と環境の情報ホームページ作成

（参考3） 地元説明会と意見交換会の実施

（参考4） 明治大学黒川農場収穫祭でのまちづくりPR

・市民ニーズ把握のためのアンケートの実施

（4）基本計画・実施方針の作成

（参考1）黒川地区の基本情報MAPの作成

多様な情報（地域の魅力、地域の活動、主な生産物、問題点、地域の催し等）を抽出し、
地図上に情報を集約化

● 流れ

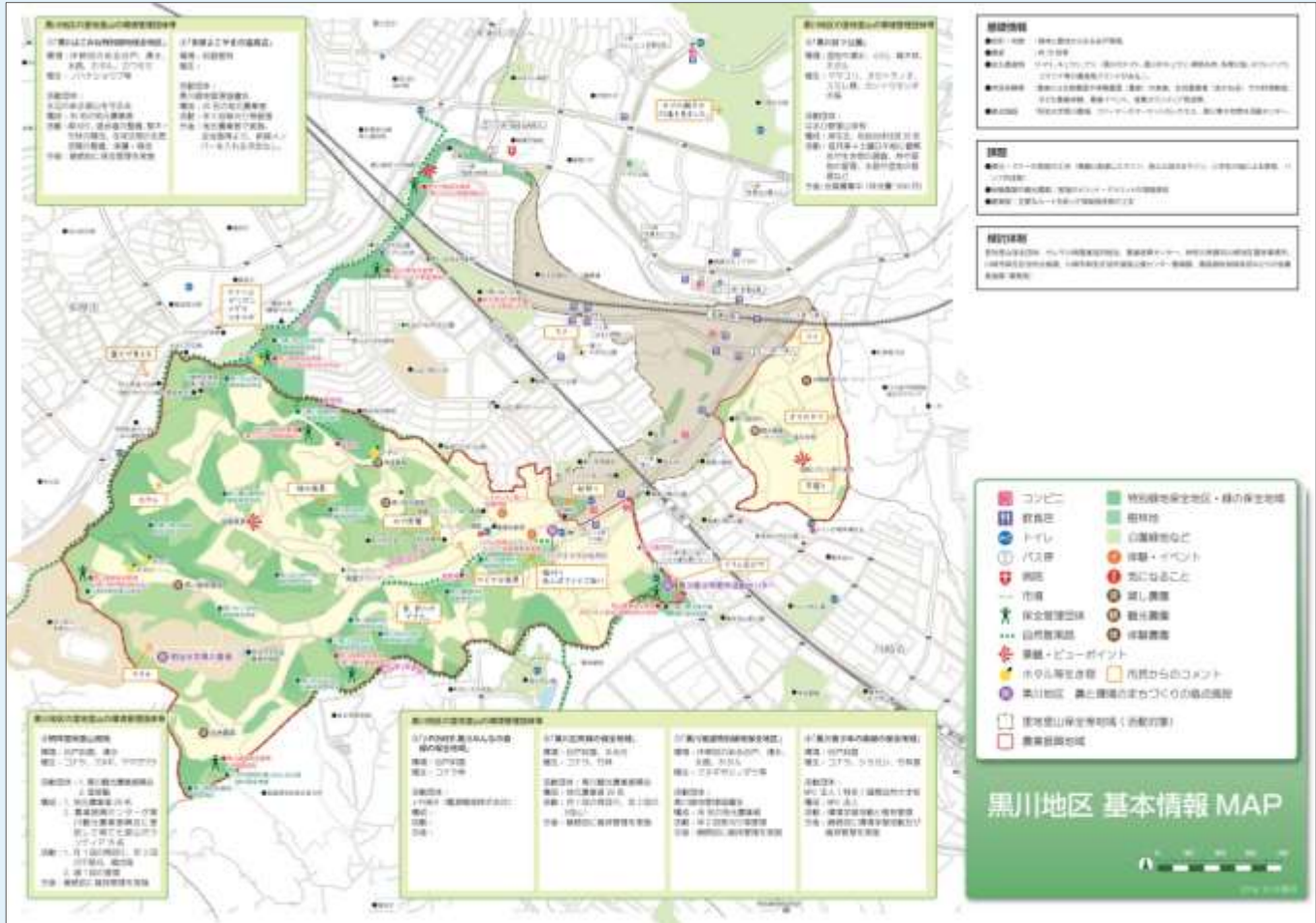
第1回 専門部会での
ワークショップ

地元町会、農業者への
ヒアリング

地元（農業者）の方の
ガイドにより現地視察
による情報の共有化

緑の保安全管理団体等の
把握

市民参加型
「黒川マップ作り」
の実施



（参考2）農と環境の情報ホームページ作成

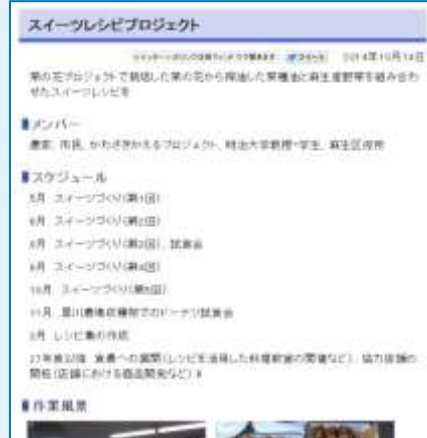
農と環境のまちづくりに関する取り組みや今後のイベント等を情報発信するホームページを作成しました。



ホームページ



イベント・ボランティア



スイーツレシピプロジェクト



菜の花プロジェクト

（参考3）地元説明会と意見交換会の実施－①

■ 概要

日 程：平成26年12月18日（木）、平成27年3月6日（金）

出席者：セレサ川崎農業協同組合、生産組合黒川支部、黒川町会、
黒川営農団地管理組合、黒川観光農業振興会、
黒川はるひ野管理組合、明治大学、川崎市

■ 実施内容

- ・ 明治大学・川崎市黒川地域連携協議会の説明
（経過、活動内容、今後のスケジュール等）
- ・ 農産物等研究専門部会の説明
（経過、活動内容、今後のスケジュール等）
- ・ 今後の進行方法について検討
- ・ 意見交換

(参考3) 地元説明会と意見交換会の実施－②

地元からの主な意見

地元への説明を積極的に行ってほしい。

草刈り等のボランティア活動については、協力したい。

明治大学に積極的に地元との関わりを持ってもらい、様々な取り組みについて連携していきたい。

協議会や専門部会へ、農業者や地域の方の参加を増やしてほしい。

菜の花プロジェクトは、もう少し範囲を広げて植えたほうがもっと良くなるのではないかな。

地元の人だけで話し合う場を作りたい。

もう少し継続して話し合いを続けてほしい。

（参考4） 明治大学黒川農場収穫祭でのまちづくりPR



パネル展示



市民参加型黒川マップづくり



スライドショー



市民アンケート

2-2. 「農と環境を活かしたまちづくり」基本計画



黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり 基本計画 H27. 2

目的

川崎市麻生区黒川地区は、豊かな緑と農地が残された里地里山の面影を残す地域となっています。しかしながら、良好な環境を持続的に維持保全していくためには、農・緑・地域等に関して様々な課題があります。そのため、本取り組みは、この地域が抱える課題を解決しながら活力ある地域にしていくため、農業者・地域住民・大学・行政等が連携し、農と環境を活かしたまちづくりを進めることを目的としています。

■黒川地区が抱える課題

農が抱える課題

- 都市農地の保全
- 農家・農業従事者の減少
- 地元農産物の魅力づくりや付加価値の向上
- 来訪者等のマナーの向上

緑が抱える課題

- 里地里山環境の持続的な保全・活用と担い手の確保
- 生物多様性の保全、環境学習情報の確保
- 農業施設と緑地保全施設の連携

地域が抱える課題

- 地域活性化と増加する来訪者への対応
- 農業者、地域住民、市民ボランティア、大学、周辺企業、市民等との積極的な連携

実施方針と目標

多様な担い手からなる「黒川地域連携協議会」を中心に、3つの方向性を持った「専門部会（農産物等研究専門部会・地域活性化検討専門部会・里地里山保全利活用専門部会）」を立上げ、各専門部会において様々な取り組みを試し、検証の上、継続的に実施していく取り組み内容を検討していきます。



取り組み事項

平成 27 年度は、農家の方や地元の方等へのご理解を進めていくとともに、地域の理解協力上で、様々な取り組みを試行していきます。そして取り組みの試行とその検証をふまえながら、今後の実施計画を作成につなげていきます。

H27 年度 取り組み事項

○基本的な進め方

- 農家の方や地元の方へのご理解と、多様な担い手への協力体制の強化
多様な担い手への取り組みを進める為、農家の方、地元住民、周辺企業、大学、緑等関わる市民団体等に、「黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり」について、ご理解とご協力のため、説明や意見交換を進めていきます。
- 試行する取り組み内容の検討
黒川地区にとって、どのようなことを進めていくのがよいか、様々な立場の方の意見を取り入れながら、今年度試行する具体的な取り組み内容の検討を進めていきます。

●取り組みの試行と検証

検討した様々な取り組みを試行し、課題解決の糸口を見つけながら、継続的な実施に向けた検証等を行います。

○具体的な取り組み例

農産物等研究専門部会	地域活性化検討専門部会	里地里山保全利活用専門部会
<ul style="list-style-type: none"> - 農土作物の加工栽培 - 加工品等販路開発 - 農家と大学の連携強化 - 情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> - 食農イベント、農業体験の実施 - ホームページコンテンツの充実 - 農の広報プロジェクトの拡大 - 農産物を用いたスイーツシズンづくり - 和光大学との連携によるサイン設置 	<ul style="list-style-type: none"> - 散策イベント実施 - 散策マップ作成 - 活動団体の P.R 支援 - マナーアップの検討

○明治大学黒川農場の収穫祭との連携した取り組みの実施（平成 27 年 11 月を想定）

取り組みの試行を効果的に実施するために、集客力のある収穫祭と連携し、ある程度の取り組みを集中させることで、実施効果を最大限に発揮させることを検討しています。



行的取り組みの実施と検証を繰り返しながら、
地域が一体となって、地域に根付く文化を育てていける
黒川地区 農と環境を生かしたまちづくり 実施計画の策定へ

2-3. 「農と環境を活かしたまちづくり」実施方針

実施方針	実施体制	具体的取り組み	
		取り組み事項	実施内容(案)
地元農産物の販売促進 と加工品の開発	農産物等研究専門部会 農畜産物、林産物及び加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。	①新規農産物や郷土農産物栽培の推進	・継続的な研究と栽培の試行 ・栽培マニュアル、試食会等による農家への普及
		②農産加工品の開発検討	・農産加工品の検討・試行、商品開発 ・ブランド化の検討や試食会の実施
		③農産物等のイベント活用やPRの推進	・地域活性化検討専門部会との連携イベントの実施 ・黒川産の農産物や加工品のPR
農や里地里山を体感する イベントの実施・PR	地域活性化 検討専門部会 農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。	①農と里山の認知促進	・HPを活用した取り組み紹介とイベント等PR ・他イベントと連携したまちづくり活動のPR
		②農と里山の体感	・農や里山を体感できるイベントの実施 (食育イベント・グリーンツーリズム、農業体験、散策イベント) ・農と環境を学ぶ講座の開催
		③地域資源の発見・創造	・地場産物を活用したレシピ研究 ・農産物等研究専門部会と連携した商品開発
里山の保全管理や活用 の推進	里地里山保全 利活用専門部会 多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。	①里地里山の体験・利活用	・里山体験イベントの実施 ・里山の利活用の検討
		②里地里山の保全管理	・里山保全活動団体の活動支援 ・里山保全方策の検討
	三部会共通	①市民や地元等の意向の把握	・イベント等での市民アンケート等の実施 ・地元農家等へのヒアリングの実施
		②大学・地域連携	・大学や地元農業者と各種取り組みでの連携推進
		③連携イベントの開催	・地元農家、緑の活動団体、地元住民、大学等との連携 ・地元農家や明治大学収穫祭やJAセレサ農業祭り(柿生支店)等との連携

3. 平成26年度の試行的取り組み事項 (農産物等研究専門部会)

- 3-1. 農産物研究専門部会の取り組み概要**
- 3-2. 平成26年度の試行的取り組み**
- 3-3. 市民アンケートの実施**

3-1. 農産物研究専門部会の取り組み概要

（1）農産物等研究専門部会の目的

将来、農畜産物、林産物及びその他の加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

（2）取り組み方針と平成26年度の実施施策

取組みの方向性	平成26年度の実施事項
新規農産物や加工品の開発検討	（1）新規農産物や郷土作物の試行栽培
農産物のイベントでの活用やPRの推進	（2）収穫祭での黒川野菜のPR - 1 農作物の販売 - 2 黒川野菜を使った料理の配布
農産物を活用した大学連携・地域コミュニティづくり	（3）大学と連携した商品開発 - 1 味噌づくり - 2 テンペづくり
	（4）地元農業従事者との意見交換会

3-2. 平成26年度の試行的取り組み

(1) 新規農産物や郷土作物の栽培



シカクマメ



岩ちゃん豆



ハッシュウマメ



のらぼう菜



湘南ポモロン



ミニニンジン



カイグア



ヘビウリ（セイロン瓜）

3-2. 平成26年度の試行的取り組み （2）収穫祭での黒川野菜のPR

黒川で採れた農作物・加工品の販売

目的：黒川の農作物や加工品を食べ、
知ってもらい次回の購入につなげていく。

内容：セレサモスやふるさとの生活技術指導士
により農産物や農産加工品
の販売

実施者：J Aセレサ川崎



黒川野菜を使った料理の配布

目的：黒川の野菜を使った料理を食べてもらう
事により、黒川野菜や加工品の良さを
知ってもらい次回の購入につなげていく。

内容：ふるさとの生活技術指導士により地場産
の野菜を使った豚汁を作り無料配布。

実施者：かわさき地産地消推進協議会
（ふるさとの生活技術指導士）



3-2. 平成26年度の試行的取り組み

(3) 大学と連携した商品開発

シカクマメを使った味噌



シカクマメ

シカクマメを
使った味噌

明治大学で研究しているシカクマメを用いた味噌を試作した。

テンペ作り



テンペ

近年、健康食品としてクローズアップされており、テンペ作りを試行した。

3-3. 市民アンケートの実施

（1）実施概要

農と環境を活かしたまちづくりに関するアンケート

■実施概要

日 程：平成26年11月8日（土）

実施場所：明治大学黒川農場 本館 1階 1-102会議室

回答数：121

【回答者の男女比】

男性：約35%、女性：約65%

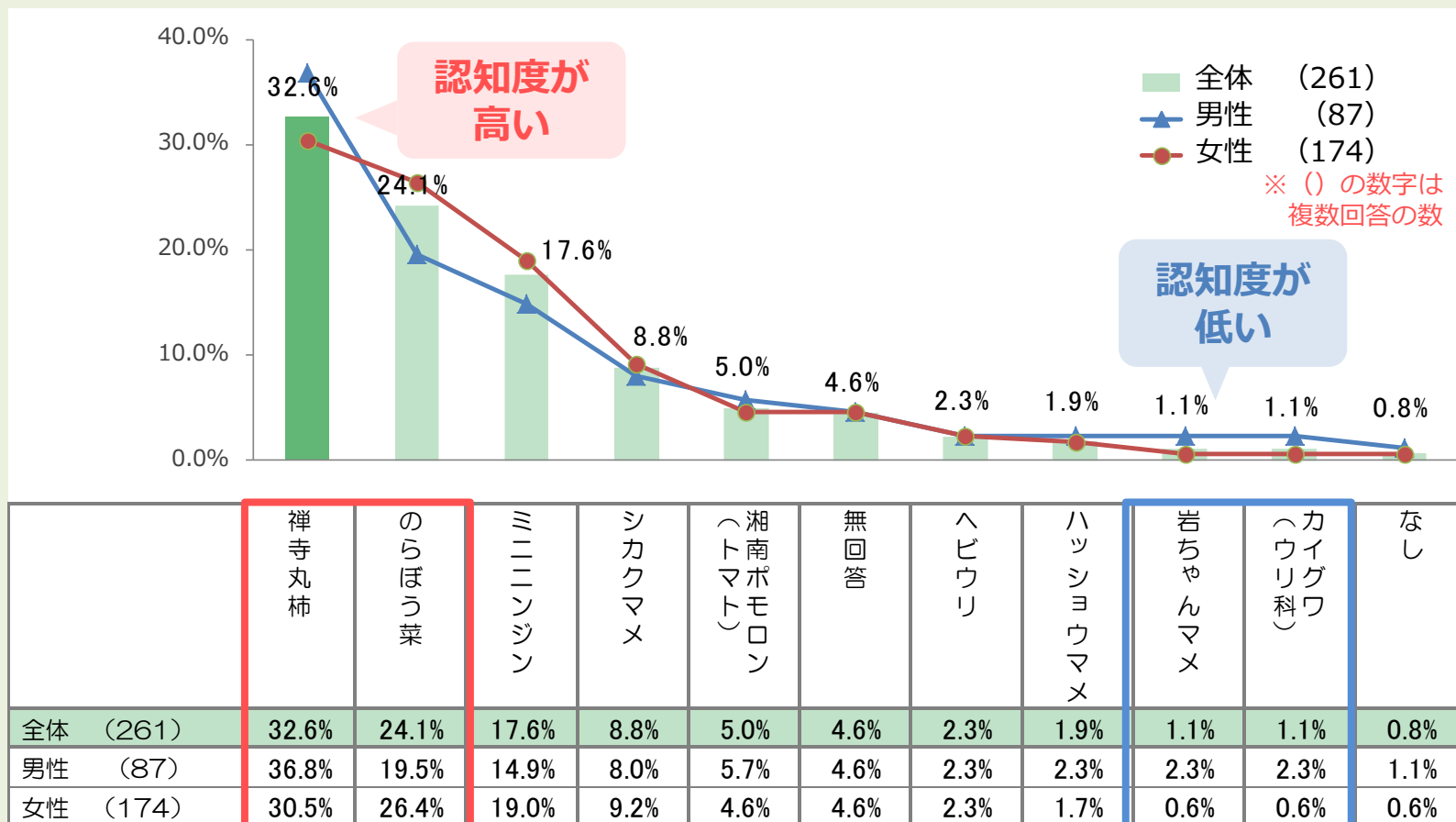
【回答者の年齢層】

60歳以上が約37%と最も多い。

39歳以下も約23%を占め、比較的多世代の方が回答。

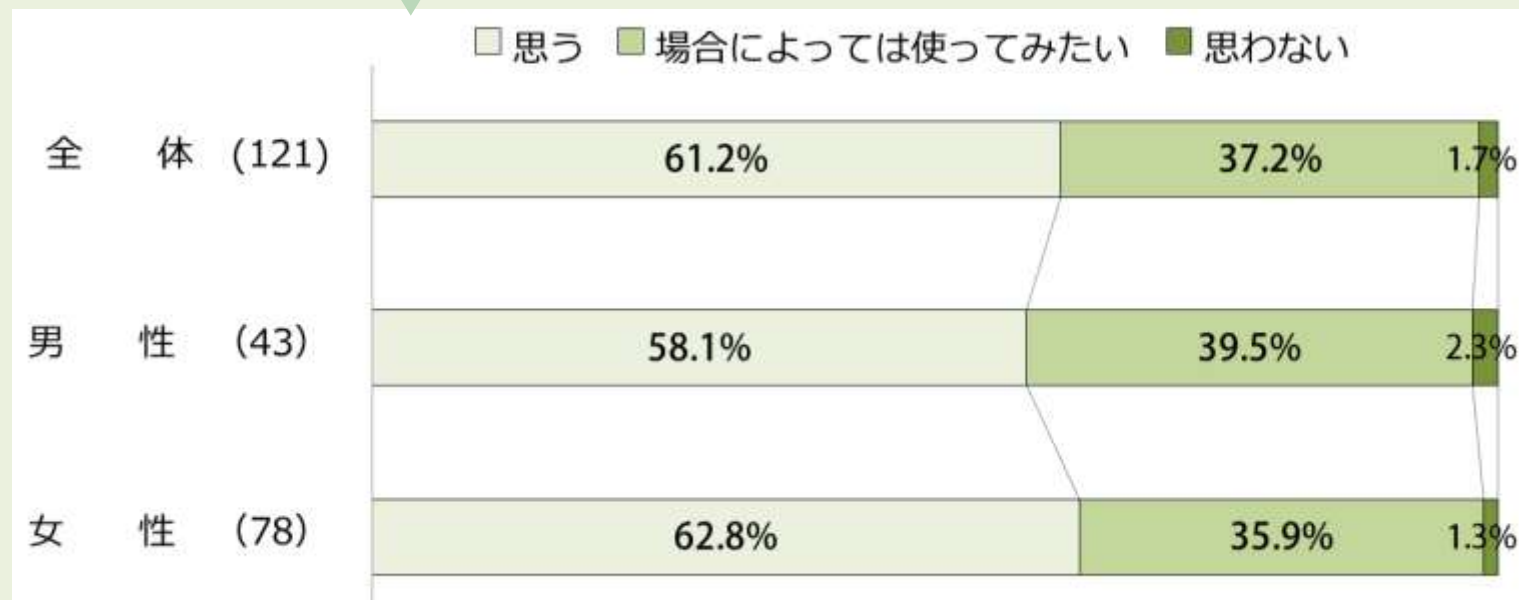
（２）アンケート結果

【設問 1】 特色ある黒川地域の農産物として、新規農産物や郷土農産物の栽培や普及の検討をしていますが、以下の農産物でご存知のものはありますか。



【設問2】新規農産物や郷土作物などについて、料理レシピや効能表示などがあれば、使ってみたい、買ってみたいと思いますか。

全体では、「場合によっては使ってみたい」を含めると、ほぼ100%の方が、新規農産物の使用に意欲的な回答となった。男女別では、大きな差異は見られなかった。



【設問3】 今後、つくってほしい農産物や農産加工品があれば教えてください。

野菜に関しては、自由意見としては様々な回答が見られた。黒ダイコンやリーキ、ルバーブなど比較的珍しい農産物への意見もあった。加工品も様々な回答が見られたが、デザートに関する加工品への要望が比較的多く見られた。

カテゴリー	回答結果（自由意見）
農産物	米、大豆、さつまいも、ミニニンジン、甘い玉ネギ、下仁田ねぎ、黒ダイコン、リーキ、ピーマン、水ナス、きのこ類（めずらしいもの）、唐辛子類（ex.ハバネロ）、ルバーブ、ゴーヤ、バジル、西洋野菜全般、旬の野菜、身体に良い作用する野菜、果物
農産加工品	アイス、アイスクリーム、ジャム、ナシシャーベットなどデザート類、ドーナツ、スープ、干し柿、梅干し、冬野菜の加工品（特に大根を使ったもの）、野菜の佃煮
その他	安全なもの、クッキーなどのレシピとか常備等、健康薬

（3）アンケート結果から見た検討の方向性

アンケート結果から、今後検討が考えられる事項について以下にまとめた。

品種拡充において

・ 「黒ダイコン」等の珍しい農作物の検討

加工品開発において

・ 「アイスクリーム」等のデザート系の開発検討

レシピ作り

・ 地元の農家やレストラン等の協力検討

PR活動

・ 生産する農産物の選定検討・認知度が低い郷土作物等の認知促進に向けた活用検討とPR強化

4. 実施計画の作成に向けた 今年度（H27）の取り組み（案）

4-1. 取り組みの基本的考え方

4-2. 今年度の主な取り組み（概要）

4-3. 今年度の主な取り組み（詳細）

4-4. 試行的取り組みの効果的な実施に向けて…

4-1. 取り組みの基本的考え方

農と環境を活かしたまちづくりを進めていくため、今年度は関係する様々な皆さんと課題や方向性を共有した上で、試行的取り組みを推進します。

● 農家の方や地元の方等へのご理解と、多様な担い手への協力体制の強化

多様な担い手への取り組みを進める為、農家の方、地元住民、周辺企業、大学、緑等関わる市民団体等に、「黒川地区 農と環境を活かしたまちづくり」について、ご理解とご協力のため、説明や意見交換を進めていきます。

● 多様な担い手の連携による試行的取り組みの推進

黒川地区にとって、どのようなことを進めていくのがよいか、ちょっとできそうなもの、やってみたいことなどを、まずはできる範囲で試してみながら、具体的な取り組み内容を決めていきます。

課題解決の糸口を見つけながら様々な取り組みを**試行**

● 試行による取り組みをくり返しながら

「農と環境を活かしたまちづくり」の実施計画につなげていく

4-2. 今年度の主な取り組み（概要）

取り組み事項	実施内容（案）
①新規農産物や郷土農産物栽培の推進	1) 農産加工品開発の検討・試行
②農産加工品の開発検討	2) マニュアルの作成・提案会の実施
③農産物等のイベント活用やPRの推進	3) 多様な主体が連携した黒川野菜のPR
その他	4) 各主体が連携した新たな取り組み事項の検討

4-3. 今年度の主な取り組み（詳細）

1) 農産加工品開発の検討・試行

目的

黒川地区の新たな魅力ある農産加工品を地元農家、大学、行政が連携して検討・開発を行う。

実施内容

① 農産加工品の検討

- ・ 女性農業者へのヒアリング
- ・ 加工する農産物の選定の検討



② 試作品の開発

- ・ 近隣飲食店や専門家の参加を視野に入れつつ、開発、試食

③ 開発した試作品の試食

- ・ 地元やイベント等で試食会の実施
- ・ 意見等を踏まえ今後の対応検討

取り組み
の担い手

農家、大学、川崎市（その他：JA、近隣飲食店、専門家等）

2) マニュアルの作成・提案会の実施

目的

今後の農業の方が取り組みたい農作物や効率的な栽培方法等についてマニュアルを作成し、提案会において試食会や種苗を配布する。

実施内容

①地元農家へヒアリング

・マニュアル化してほしい作物や項目についてヒアリング

②マニュアルの作成

③試行栽培

④提案会の実施



取り組みの担い手

農家、大学、JA、川崎市

3) 多様な主体が連携した黒川野菜のPR

目的

黒川の農作物について、地元農業者、JA、大学、行政等の関係者が一体となってPRを行う。

実施内容

①PR内容を検討

②効率的なPR方法の検討

→効果的なPRの機会として明治大学収穫祭との連携

※参考：昨年度の市民の意見より

- ・昔のような農家の方と直接話せる販売してほしい。
- ・農家の方に食べ方などを聞きたい。

③PRの実施



取り組みの担い手

農家、大学、JA、川崎市

4) 各主体が連携した新たな取り組み事項の検討

目的

今後の地域活性化に向けて、各主体が連携して取り組める事項について、アイデア検討を行う。

実施内容

① 専門部会での意見交換

② 地元説明会でのヒアリング

【アイデア例】

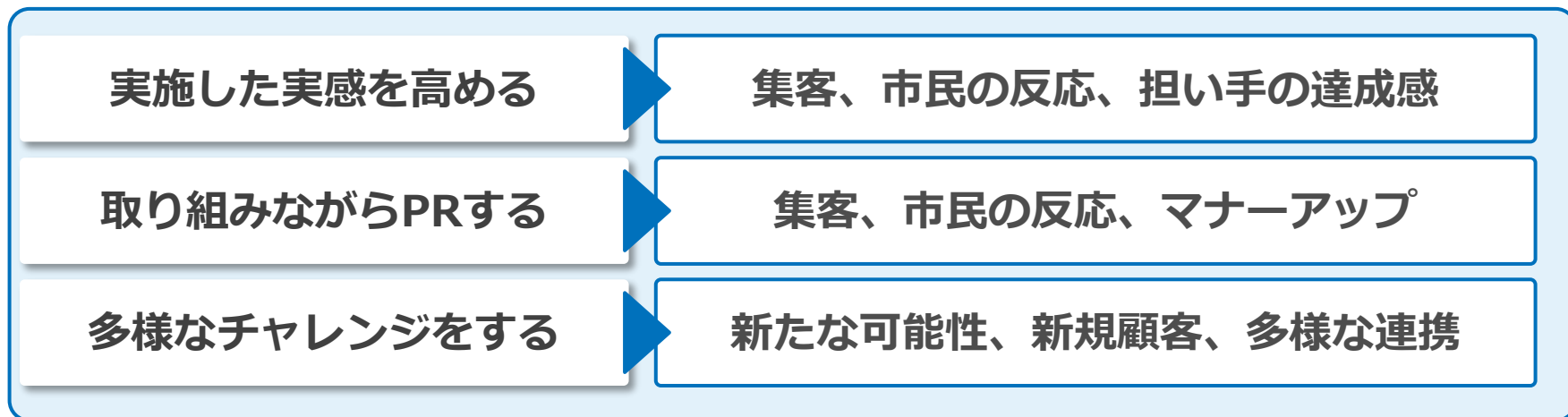
- ◆ 休耕地における風景づくり
→ 菜の花プロジェクトとの連携及び規模の拡大
- ◆ 子ども向けの農業体験
→ 農機具などの見学や解説、作業体験など環境教育の一環として子どもたちの農への関心を高める
- ◆ エコマーケットや黒川マルシェの開催
→ エコをテーマとしたマーケットを開催

たとえば…

取り組み
の担い手

農家、大学、JA、川崎市

4-4. 試行的取り組みの効果的な実施に向けて・・・



試行的取り組みの実施と検証を繰り返しながら、
地域が一体となって、地域に根付く文化を育んでいける
黒川地区 農と環境を生かしたまちづくり 実施計画の策定へ

5. 今後の予定

5-1. 今年度（H27）の取り組みの流れ（案）

5-2. 中長期的スケジュール（案）

5-1. 今年度（H27）の取り組みの流れ（案）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1) 農産加工品開発の 検討・試行					検討・試行				●			
											●	
2) マニュアルの作成 ・提案会の実施					マニュアル作成						●	
												●
3) 黒川野菜のPR					PR検討		PR実施	●				
												●
4) 各主体が連携した新たな 取り組み事項の検討					検討				●			
												●
意見交換会		①			②					③		
専門部会				①		②				③		
協議会					①		②				③	

5-2. 中長期的スケジュール（案）

